

日本人のしゅうきょうかん：日本社会での宗教の位置

おはようございます。わたしはオノグーウガ。エリザベスともします。去年の十月にナイジェリアから参りました。今日のわたしのテーマは、日本人のしゅうきょうかんです。

アフリカの国々では、今も宗教のなやみがたくさんあります。私の国のナイジェリアでも大きな問題です。

日本では 色々な 宗教が あります。そのだいひょうてきなものは、神道と仏教です。日本では、そのほかにもキリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンズー教、などを信じている人がいます。なにも信じていない人もいます。

多くの日本人は一生のうち、神社でたんじょうを祝い、教会で結婚式をあげ、そして仏教ようしきでそうしきをするぐらいではないでしょうか。

彼らにとって宗教は生活における慣習の一部といえるでしょう。日本国けんぽう 20 じょうは、すべての国民（こくみん）に“しんこうのじゅう”をほしょうし、それはめい文化されています。

しかしながら、日本以外の国では宗教はとてもせんさいな問題で、二つのことなる宗教 どうし、のたいりつがいつも、あります。

世界は、日本人の宗教かんをいちど、みなおすべきではないでしょうか。もし、世界の人々が、ほかの宗教に対してかんような日本の考え方をひょうかし、“ほかの宗教の存在そんざいをきょようする”という、日本のやり方を取り入れれば、宗教によるせんそうは*かこのいぶつ*となることでしょう。

ごせいちょうありがとうございました。